

第9回コア会議 議事要旨

地域別構想について

<全体>

○地域と拠点のかかわり方については地域別構想では触れないのか。

⇒地域別構想では分散して、暮らし方の目標の部分に駅周辺や駅前商業地について記載している。地域別構想とは別に、駅周辺まちづくり基本計画でも整理する。(事務局)

○方針・プロジェクトの内容について、各会議体での意見から反映されたもの以外（黄色塗り以外）の内容はどこから持ってきたものか。

⇒現行計画に記載されている内容を残している。ただし、内容を統合しているものや、既に完了している計画等は記載していない。庁内の関係部局にヒアリングを行い、今後も継続して進める必要があるプロジェクトは残し、新たに進める必要のあるプロジェクトは追加している。(事務局)

○全体として、各プロジェクトの内容をどこで実施するのか、場所の情報を記載する必要がある。実現するかは別として、例えば高齢者が集まる場所はこんな場所に、というイメージは記載すべきである。場所が特定できるように空間化・具体化し、図面にも反映できる情報は反映できると良い。

○今までのコア会議では様々な意見が挙がっていたが、資料にはあまり記載がされていない印象である。分野別で議論した内容についても、地域別に反映できる部分は反映するなど、整理すべき。

○市政 50 周年の際に作成したような、ビジュアル化したものがあると市民がイメージしやすいのではない。パースや空間がわかる図など、各中学校区で特徴的な要素を抽出して描けるとイメージしやすいかもしれない。

○住宅地としてどのような空間ができるのか、絵があると全体的な空間がイメージできる。市民がこんなまちならつくってみたい、と思えるようなイメージを検討いただきたい。

①大坂上中学校地域

○民間建築物の耐震化率のデータはあるのか。耐震化は、建築基準法等で定められている規則ではないため、促進するためにどのような方針を記載するのかは難しいところである。

⇒耐震化促進計画で耐震化率の把握はしている。駅周辺などの市民の利用が多い場所の耐震化を促進していくなど、そういった方針を記載することは考えられる。(事務局)

○狭隘道路については、密集市街地のことを言っているのか。

⇒日野市にはいわゆる密集市街地は無いが、戸建て住宅が集中している地域はある。まずは未接道建物や、狭い道路の改修、拠点施設を維持するための耐震化など、方針を付け加えて記載する。(事務局)

○土砂災害や風水害への対応が必要な地域では、災害時に担当課から住民へ情報が伝達されるのかと思うが、それが現実的に可能なのか、実現するためにはどうしたらいいのかを考える必要がある。

⇒プロジェクトについては、事業を行う際に使えるように、広い内容で記載している。各プロジェクトの内容を細かく記載すると（内容を限定しすぎると）適応しない場合に実現できない可能性もあるため、バランスが難しい。(事務局)

○計画の最後の方に、プロジェクトを進めるうえでの短期・中期・長期の仕分けを記載すべき。

○「住みやすい」や「きれいなまち」等の抽象的な表現ではなく、どのように住みやすいのか、どのようなきれいなまちなのか、といった具体的に示すべきである。

⇒大きくは「住みやすいまち」として、具体的には、各地域の住宅地ごと等で目指したい方向性を記載していきたい。(事務局)

○利便性を向上することは大切であるが、自然を残すことも大切である。交通網を改善すると自然が減るなど、バランスのとり方が難しいと感じた。

○「日野駅を日野の玄関として」と記載されているが、整備されていないように思う。将来的な計画として駅ビルを整備し、公共機能が入ることで駅周辺で行政手続きが行えるようにすることなどが考えられると良い。併せて電柱の地中化も進められると良い。日野駅では商業と観光を併せて考えられるのではないかな。

○日野自動車が「操業環境の維持」となっているが、おかしい。

⇒「対話をしていくべき地域」等に修正する。(事務局)

○凡例については、地域ごとの内容で書き替える必要がある。

②第一中学校地域

○中央公民館の建て替えについては、高層ビルを建てて下層階は公民館として、上層階をホテルやマンションにできると人が集まるのではないかな。

⇒日野駅周辺に関するプロジェクトは、ほぼ現行計画を踏襲したものであり、実現できていない。改訂計画では「公共施設の再編や福祉サービス機能の地域に開かれた活用方法の検討」を加えており、面的なエリアとして考えていく方針である。(事務局)

○「緑地の公有地化」と「民間事業者による緑地の保全」の関係性を教えてほしい。

⇒都市計画緑地に指定してる緑地については、できる範囲で公有地化し、民間事業者や市民で維持管理を行い、利活用できる仕組みがつけると良いと考えている。(事務局)

○日野市には多くの緑があるため、第一中地域で緑を強調する必要はないのではないかな。日野崖線であれば、黒川清流公園の緑を保全することがより強調されるべきではないかな。

⇒ここでは、日野崖線の緑の保全について記述しており、地域全体の緑を保全する方針ではない。(事務局)

○大坂上中地域と第一中地域では日野駅が地域の境界であるが、両方の地域で同じプロジェクトが記載されていたほうが自然ではないかな。また、日野崖線等は地域を横断しているため、各地域で同じプロジェクトが記載されるべきではないかな。

○地域ごとに特徴を出す部分は必要だが、共通の部分は無理に分けなくても良いのでは。

⇒全市的に共通した課題等は分野別計画に記載し、地域固有の内容を地域別に記載している。地域ごとに共通する内容についても、できるだけ地域ごとに分けて記載する方針であり、よりピンポイントでわかりやすい構成となるように検討する。また、住宅地の緑と、自然の緑では保全の考え方等も異なるため、その違いがわかるように記載を検討する。(事務局)

○「日野宿まちづくり」部分について、以前の会議で旧甲州街道も散策ルートへ、という意見を言ったが、そちらも検討いただきたい。

⇒点在している施設を結ぶことと、歴史的な散策ルートについては観光振興の方で検討しており、今後も引き続き検討を進める方針である。(事務局)

○浸水想定区域について記載されているが、前回の会議で3階建ての建物を推進すべきなど意見を出しており、検討いただきたい。特に第四小学校は危険な地域であるため、災害拠点として整備する等、検討いただきたい。

⇒防災面については、防災対策や地区計画等について様々な意見をいただいているため、防災まちづくりの手段や具体的なエリアなど、記載できる部分は追加していきたい。(事務局)

○「街並み保全」部分について、中央自動車道の日野バス停から甲州街道駅までの案内(サイン計画)が必要であるため、記載できると良い。また、「安心・安全な道づくり」については、川崎街道までの道が狭いため、整備の方針を検討してほしい。

○「子育て環境の充実」部分に、空き家の内容が記載されているが、この地域は空き家が多いのか。
⇒この地域に特に空き家が多いわけではなく、小中学生の居場所を確保するアイデアとして、空き家の活用を挙げている。(事務局)

○モノレール駅については、交通機能としての役割がメインであるため、「駅舎内のベンチ・案内板」や「駅周辺でのフリーマーケット」がプロジェクトの初めにくるのは違和感があるため、掲載する順序を整理するべきである。

○石田橋の付近に整備予定の大規模な公園についても記載するべき。

⇒反映する。市民が幅広く利用できる施設として、テニスコート等の運動施設や周辺住民が利用する遊休環境が主な機能である。(事務局)

③第二中学校地域

○「湧水の保全」部分の「湧水源となる緑地内での大規模団地建設等の規制」について、湧水源はどこのことを指しているのか。

⇒湧水源は黒川清流公園のことであり、「大規模団地…」については公園北側に建設予定であった大規模団地のことである。以前、マンション工事の影響で清流が白濁した経緯があり、湧水と崖線の緑地を保全するという方針である。

○湧水に十分配慮して団地の建て替えや大規模敷地の開発を行うという点が重要である。守るべき緑地はどこなのか。

⇒崖線の緑地部分である。ほとんどが公有地であり、一部民地である。わかりやすい内容となるように検討し、追記する。(事務局)

○「誰にとってもやさしい駅周辺づくり…」の、「安心して歩ける駅前づくり」部分について、「…商店会による取り締まりチームの結成…」はもう少し要点を押さえて記載するべきである。

○違法駐車は大分解消されたのではないか。また、銀行の休日一般開放も必要ないのではないか。既に改善されたものは削除する必要がある。

⇒違法駐車や銀行の休日一般開放等は一定程度解消されたため、削除する。(事務局)

○駅上部の活用については、どういった考えか。

⇒駅前広場が現状 3,000 m²程度であり、基準の 5,000 m²に達していない。駅上部を活用できる可能性もあるため記載している。(事務局)

○基準はあくまで算定上の話であり、小さなスペースで既存施設等の活用も含めてスマートに考えるのが今どきの考え方である。タクシールールについても、AI 等を活用して交通需要を把握する等、無駄待ちが無くなるように様々な工夫がなされている事例がある。お金をかけて駅前広場を拡大するのではなく、駅前空間をマネジメントする方針としたほうが現実的ではないか。

○豊田駅からイオンまでの道に屋根を架けることで、雨に濡れずに行けるようになると良い。

○世の中的にメンテナンス費用がかさむこともあり、アーケード撤去が主流である。道に屋根を架けることについては賛否ある。

- 店舗と連携して、屋根の下を通過して濡れないようにする方針は考えられるかもしれない。
- 「川の駅」とはどのような施設を考えているのか。
- ⇒川の交流拠点として、川沿いに喫茶店などのサイクリングロード利用者が休憩できる施設が併設する場所として考えている。(事務局)
- 日野台4丁目の部分で、「まちなみのモデルをつくる」という記載があるが、抽象的な表現ではなく、きれいとは何か、という部分をモデル地区として示せるとわかりやすい。
- 豊田駅は南北の移動に難があり、自転車では行き来しづらい。南口の病院に行くには、現状ではイオンに自転車を停めて歩くしかない。自転車や徒歩での南北の移動が楽にできるようになると良い。
- 豊田駅と高幡不動駅間の直通バスが少なく不便であるため、充実させてほしい。南平と豊田の移動も同様である。

④第四中学校地域

- 「パートナーシップ等によるまちづくり」部分の、「小中学校の空き教室の活用方法の検討」については、今後10年空き教室が増加する傾向はないため、「小中学校の余裕教室やその他公共施設の有効活用」など、記載内容を訂正する。(事務局)
- 20年後のデータを基に、子供の数が減少傾向にあったため、空き教室の利用といった意見が挙げたのではないかと。データをもう一度確認いただきたい。今後子供の数が減少してきて、利活用する際の根拠となるため記載しておけると良い。
- 西平山の取り残された地域について、コア会議でも意見挙がっていたが、そこに対するプロジェクトは追加しないのか。
- ⇒「生活利便施設の充実」部分に、広域幹線道路や駅前で機能を補完することを想定している。(事務局)
- 「パートナーシップ等によるまちづくり」部分に、「リビングラボの実施」と記載されているが、地域別で記載するのか、別の部分で記載するかは要検討ではないか。もう少し具体化していく必要がある。
- 地域戦略室と都市計画課で相談しながら検討すると良い。テーマ別で記載して地域別では記載しないか、地域別で記載する場合は他の地域にも反映するなど検討が必要。
- 「すべての人にやさしいまちづくり」について、「…ベンチなど少し休憩できる場所の確保」部分は、どこに確保するのか。高齢化すると外出をサポートすることは非常に大事になってくる。高齢化が進む地域では、買い物ルートなども併せて、高齢者の生活実態に併せて検討するなど、道筋を描くべき。全体方針と高齢化が顕著な地域の部分で記載するなど。
- 地域ケア会議で、休む場所についての意見が挙がっており、その中で休める場所マップの作成なども挙がっていた。検討いただきたい。

(その他)

- 日野バイパスに自転車レーンがあるが、怖いため歩道を走ってしまう。自転車レーンつくるならもう少しきちんとしてほしい。
- まちづくりとして自転車レーンをどのように考えるかは検討すべき。
- 将来的に電気自動車や電動車いすが普及することを考えると、充電スポットも必要になってくる。市で購入し、実際に使いながら実証できると良い。

- 重要なテーマであるため、どのように普及させるかはテーマとして記載しておくべきかもしれない。
将来的にニーズ増えるため、住宅地などで検討するべき。電動車いすは日本だと低速だが、海外だともっとスピード出せて行動範囲も広がる
- 平山地域で、車いすのスペースを確保したまちづくりを検討できると良い。
- 企業も関心あるため上手く巻き込んでできるとよい。

以上